

心のかよう住みよい 福祉のまちづくりを目指して

2月10日、こばやし福祉推進大会が文化会館で開催されました。野尻町区内の保育園児によるかわいらしいダンスで開幕し、福祉功労者個人・団体を表彰。金婚者130組、米寿者87人を祝い、仲好友愛会による舞踊や小渕流洲春会による演奏が披露され、会場を盛り上げました。



受賞者、金婚者、米寿者を代表して謝辞を述べた堀泰一郎さんと妻の友子さん（金婚者代表）



植樹後、添え木を打ち込む参加者。毎年秋の行楽シーズン前には、ボランティアによる下草刈りなどの育樹事業も行われています

昔ながらの観光道路に 県道1号沿いに広葉樹を植樹

2月10日、県道1号みどりのトンネル植樹事業が行われました。みどりのトンネル推進協議会の会員ら50人が参加し、沿線の旧料金所跡にモミジやサクラ200本を植樹。坂本新平会長は「植樹場所は、霧島国立公園の入り口。植樹を通じて、霧島の湧水保全につながれば」と話していました。

Jリーグチームが小林市で初のキャンプ J2の松本山雅FCとFC町田ゼルビアを歓迎



小林市役所で歓迎を受け抱負を語る反町監督。松本山雅FCは総合運動公園陸上競技場などで20日までキャンプを行いました

2月10日、サッカーJリーグ2部（J2）の松本山雅FCとFC町田ゼルビアのキャンプが小林市で始まり、歓迎式を行いました。両チームには、特産の宮崎牛やミネラルウォーター、きんかんを贈呈。松本山雅FCの反町康治監督は「一生懸命練習し、いい成果を持って帰りたい」、FC町田ゼルビアのオズワル



神の郷温泉で歓迎を受け抱負を語るアルディレス監督。FC町田ゼルビアは総合運動公園陸上競技場などで15日までキャンプを行いました

ド・アルディレス監督は「厳しいリーグ戦を戦えるようしっかり準備したい」と抱負を語りました。

また、町田ゼルビアは12日、小林サッカースポーツ少年団と交流会を開催。子どもたちはミニゲームを行いながら、憧れのJリーガーとの貴重な時間を楽しんでいました。

スポーツ吹き矢で交流を 宮崎小林中央支部が設立

2月6日、日本スポーツ協会宮崎小林中央支部の設立式が中央公民館で開かれました。会員や関係者20人が出席し、オープニングでは会員が吹き矢を披露。県協会の二木幹夫会長から前原博支部長へ支部認定証が手渡され、前原支部長は「健康にも良く、高齢者でもできるスポーツ。まだ会員は少ないが、増やしていきたい」とあいさつしました。



会員は、吹き矢の市民講座受講生ら7人。毎週月曜日の午後1時半から中央公民館で練習をしており、見学や体験も迎えています

小林市の活性化へ向けて 第1回産学官交流会

2月8日、ジェイズカントリークラブ小林ゴルフコースで、第1回目の小林市産学官交流会が行われました。これは、企業・高校・行政3者による情報交換を目的に開催。市内12企業と西諸管内の5高校、市職員など計70人が参加し、小林市活性化へ向けた意見交換などを行いました。



同交流会では今後、小林市の活性化へ向けて、企業活動のご参考になるような講演や研修会を企画していく予定です



小林小6年の山田涼夏さんが「身近にドイツのものがたくさんあることを知り、関わりが強いと感じた」とお礼を述べました

ドイツ総領事オルブリッヒさん 小中学校生徒に独文化を紹介

2月2日、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事のアレクサンダー・オルブリッヒさんが、市内3小中学校児童生徒を対象に講演を行いました。オルブリッヒさんは、ドイツが産んだ音楽家や発明、童話、歴史などを紹介。「文化に違いはあるが、日本の漫画やアニメは人気」と話していました。



小林城址について「城といっても石垣や天守閣などはない山城。しかし、川や池、断崖が登進を許さない天然の要害であった」と説明

身近な戦国時代の史跡を解説 文化財探訪バスツアー

2月8日、文化財探訪バスツアーが開催されました。27人が参加し、市ガイドボランティア協会の会員12人の案内で、小林城址や、内木場城址など戦国時代に関連した6史跡を探訪。島津氏・伊東氏の攻防戦が行われた城内を歩きながら、城の特徴や戦の様子を細やかに解説していました。